



農業用水路の「ぬるめ」は、幅 16 m 全長 300 m、コンクリートできており、暑い日にはこの水路を流れる間に水温が3℃も上昇します。現在の「ぬるめ」は昭和56年に付け替えられたものですが、それ以前の「ぬるめ」は幅が今の半分、全長が今の倍もあり、上流は今のゴルフ場の中を流れていました。昔の水路跡は「わっぱらんど」内に現在でも残っており、一部は駐車場や散策路として利用されています。

県内でもめずらしいこの「ぬるめ」。旧水路の敷地も含め、周辺 2 ha が市有地となっています。その土地を活用しようという市の呼び掛けに応じて、1999 年に、市民・行政・企業の協働による公園づくりが始まりました。今では安全に遊べる水辺として、多くの市民や観光客に親しまれています。



上原に入植した開拓団（昭和 25 年撮影）

「ぬるめ」誕生の創作民話 へそすりの池

語り：大町民話の里づくり
もんぺの会

次の QR コードから
音声ファイルを聞く
ことができます。



<https://grutta.net/img/monpe/hesosuri-no-ike.mp3>

わっぱらんど 25年のあゆみ

1999年	土地を所有する大町市農林水産課が、自然公園として整備しようとボランティアを募集視察と会議を重ねて、どんな公園にしたいか案を出し合う
2000年	「わっぱらんど」の名称が決まり「わっぱらんどの会」が発足 ヤブ刈りや倒木・枯木の除去等の整備開始、橋の建設、第1回わっぱらんど夏祭り
2001年	ピオトープ池の整備、あずまの建設、維持管理作業、夏祭り等イベント チェーンソー・のこぎり・草刈機など道具の購入 県の土地改良事業により、駐車場、トイレ等が整備される 事務局が市から民間に移る
2002年	車止め、ベンチなどの設置、夏祭り等イベント
2003年	小規模看板の設置、交流センターの建設、夏祭り等イベント、維持管理作業 🏆平成15年度第18回農村アメニティ・コンクールの選考受賞 🏆平成15年度農業農村整備調査計画功労者表彰（関東農政局）受賞
2004年	5周年記念事業として FM 長野公開生放送「平河地一丁目」野外コンサート、野外ホールの建設、夏祭り等イベント、維持管理作業
2005年	エコツアー・視察の受入れ、夏祭り等イベント、維持管理作業
2006年	野外ホールの修繕、夏祭り等イベント、維持管理作業
2007年	夏祭り等イベント、間伐含む維持管理作業、市内小学生の課外授業受入れ開始 「わっぱらんどの会」の呼びかけにより「大町温泉郷ぐるったネットワーク」を設立のちに NPO 法人ぐるったネットワーク大町となる
2008年	夏祭り等イベント、間伐含む維持管理作業 🏆第15回コカ・コーラ環境教育賞受賞
2009年	10周年記念事業として、子供たちの参加のもと手作りでツリーハウスの建設
2010～ 2018年	夏祭り等イベント、維持管理作業を継続 市内小学校の課外学習受入れを拡大、教育旅行の受入れも始める
2016年	わっぱらんどの有効活用と活動の継続を考え、NPO 法人ぐるったネットワーク大町と合併 ぐるったネットワークの中の一部会として活動を継続することとなる
2019年	20周年の節目を迎え、次の20周年に向かうために「わっぱらんどを育む会」設立 20周年記念イベント「ロングロング流しそうめん」を含む夏祭り開催、維持管理作業 🏆長野県知事表彰、大町市表彰
2020年	橋とツリーハウスの修繕、デッキの交換 コロナとトイレ修繕のため、夏祭り中止（2022 年まで）
2022～ 2024年	維持管理作業、イベント等実施
2024年	地元のヒノキ材でベンチ6台制作・あずまのテーブル修繕 「わっぱらんどの会」活動終了 NPO 法人ぐるったネットワーク大町が活動を継承



このパンフレットは「ゆうちょエコ・コミュニケーション」からの寄付を活用して作りました



わっぱらんどへ ようこそ

わっぱらんどはみんなで作るみんなの公園です。

訪れた人が豊かな自然の中で憩い楽しめる空間にしようと
水路と周りの雑木林に手を入れています。

この公園に完成はありません。

草を刈ったり、掃除をしたり、修繕したり…

私たち一人一人の手で居心地のよい場所にしていけることが
できるのです。思いっきり遊ぶことも参加のひとつ。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ぬるめの成り立ちと開拓の歴史

わっぱらんどを流れる上原温水路（通称：ぬるめ）は、上原集落の米づくりのために造られたものです。上原集落は戦後の入植でできた村で、50 ha 程のまとまった水田が開墾されました。傾斜地ゆえの広い畔、あちこちに残る手積みの石積に、当時の苦労がしのべれます。

水田を潤す水は麓川から引きますが、北アルプスの雪溶け水を源とする急流の水は冷たく、稲作に適したものではありませんでした。そこで人々は、川の水を広く浅く流す温水路を造ることで、田んぼにかけの前に冷たい水を少しでも温めることを考えました。それがこの「ぬるめ」です。

開拓後数年して田んぼで稲作が始まった頃、上原集落の米の収量は1反あたり4～5俵でした。平成30年の長野県の平均値が約10俵なので半分以上だったわけです。

温水路ができた後には水温は3℃上がり、収量が7～8俵になったそうです。水温を1℃あげると米が一俵増収することをいう「一度一俵」は、こうした実体験から生まれた言葉なのです。



わっぱら 上原開拓の歴史

- 1948 (S23) ● 上原開拓始まる
入植者 30 戸
- 1954 (S29) ● 電気導入
- 1958 (S32) ● 水道入る
- 1959 (S33) ● 上原神社建立
- 1962 (S37) ● 温水路できる
- 1968 (S43) ● 開拓完了 (20年経過)
(1戸当り1町5反)
- 1975 (S50) ● 上原霊園できる
- 1979 (S54) ● 運動広場できる
- 1979 (S54) ● 温水路付替工事開始
- 1982 (S57) ● 付替工事完了



豊かな自然環境

わっぱらんどで見ることができる樹木や植物は300種類以上。見たり、触れたり、嗅いだりして、それぞれの特徴を学ぶことができます。

野生動物との出会いも

わっぱらんど周辺は野生の猿の群れの生活の場です。四季を通して目にすることができます。また、カモシカの通り道にもなっており、運が良ければ出会えます。

クマやハチ、ヘビなどの危険生物の生息域ですので、十分注意してください。

イベント・整備作業の問合せ：

(特非)ぐるったネットワーク大町 ☎ 0261-85-0556

土地管理者：大町市農林水産課 ☎ 0261-22-0420 (代表電話)